「礼拝をするなら、あなた方の列をまっすぐにしなさい。それから、あなた方の内の誰かにあなた方を先導させ、彼がタクビールしたら、タクビールしなさい

ヒッターン・ブン・アブドッラー・アッ＝ラカーシーは言った：私はアブームーサー・アル＝アシュアリーの後ろで礼拝した。そしてタシャッフドの時、人々の中のある男が言った：「礼拝は善行と浄財と共に、義務となった。」礼拝が終わり、タスリームすると、アブームーサーは向き直って言った：「これこれのことを言った
者は、あなた方の内の誰か？」人々は沈黙した。そして、言った：「これこれのことを言った者は、あなた方の内の誰か？」また人々は沈黙した。それから言った：「ヒッターンよ、もしかしてお前が言ったのか？」彼は言った：「私が言ったのではありません。私はあなたがそのことで私を責めるのではないかと、恐れていました。」すると、人々の内のある男が言った：「私が言いました。私は良かれと思って言っただけです。」アブームーサーは言った：「あなた方は礼拝の中でどのように言うのか、知らないのか？アッラーの使徒（アッラーからの祝福と平安あれ）は私たちに説教し、私たちのスンナについて私たちに説明し、私たちの礼拝について教え、こう言ったのである： 「礼拝をするなら、あなた方の列をまっすぐにしなさい。それから、あなた方の内の誰かにあなた方を先導させ、彼がタクビールしたら、タクビールしなさい。そして彼が『つまり、（あなたの）お怒りを受けるでもなく、迷うでもない者たちの道へ』（クルアーン1：7）と言ったなら、『アーミーン』と言いなさい。そうすればアッラーはあなた方に応えるでしょう。また、彼がタクビールし、ルクーゥしたら、タクビールし、ルクーゥしなさい。イマームがあなた方より先にルクーゥし、あなた方より先にそこから戻るのです。」こうしてアッラーの使徒（アッラーからの祝福と平安あれ）は、言った：「その時が、その時のためのものです。そして彼が『アッラーは、かれを讃える者を聞き給う』と言ったら、『アッラーよ、我らの主よ、あなたにこそ賛美はあります』と言いなさい。そうすればアッラーは、あなた方をお聞きになるでしょう。というのも至高なるアッラーは、その預言者（アッラーからの祝福と平安あれ）の言葉によって、『アッラー は、かれを讃える者を聞き給う』と仰ったからなのです。また、彼がタクビールし、サジダしたら、タクビールし、サジダしなさい。イマームがあなた方より先にサジダし、あなた方より先にそこから戻るのです。」こうしてアッラーの使徒（アッラーからの祝福と平安あれ）は、言った：「その時が、その時のためのものです。そしてタシャッフドの段になったら、あなた方の最初の言葉をこれにしなさい：『挨拶とよきものと礼拝は、アッラーに。預言者よ、あなたに平安とアッラーのご慈悲と祝福あれ。私たちと、アッラーの正しい僕たちに平安あれ。私はアッラー以外に崇拝すべきいかなるものもなく、ムハンマドがかれの僕であり使徒であることを
証言する』と。」
[صحيح] [رواه مسلم]

アブームーサー・アル＝アシュアリー（アッラーのご満悦あれ）が礼拝し、タシャッフドのための座位姿勢にあった時、礼拝者の中のある男が後方で言った：「礼拝はクルアー ンの中で、善行と浄財と共に並べられている。」それでアブームーサー（アッラーのご満悦あれ）は礼拝が終わると、礼拝者の方へ向き直って、尋ねた：「『礼拝はクルアー ンの中で、善行と浄財と共に並べられている』という言葉を言った者は、あなた方の内の誰か？」すると人々は沈黙し、誰も口を開かなかった。そして、もう一度その質問を繰り返したが、やはり誰も答えなかった。それでアブームーサー（アッラーのご満悦あれ）は言った：「ヒッターンよ、もしかしてお前が言ったのか？」それはヒッターンが大胆で、アブームーサーと血縁上も関係上も近い間柄であり、そのように言うことが大きな問題とならなかったためであり、また、張本人が白状するのを促すためでもあった。ヒッターンはそれを否定し、言った：「私はあなたが、そう言ったのは私ではないかと思って、私を責めるのではないかと恐れていました。」そこで、人々の中のある男が言った：「私が言いました。私は良かれと思って言っただけです。」アブームーサー（アッラーのご満悦あれ）はそこで、彼に教示してこう言った：「あなた方は礼拝の中でどのように言うのか、知らないのか？」これは彼からの非難の言葉であった。それからアブームーサーは、預言者（アッラーからの祝福と平安あれ）がある時彼らに説教し、そこでイスラームの教えについて説明し、礼拝について教え、こう言ったのだと語ったのである： 「礼拝をするなら、あなた方の列をまっすぐに揃えなさい。それから、あなた方の内の誰かにあなた方を先導させ、イマームが礼拝開始のタクビールをしたら、同様にタクビールしなさい。そして彼がアル＝ファーティハを読み、『つまり、（あなたの）お怒りを受けるでもなく、迷うでもない者たちの道へ』（クルアーン1：7）という箇所に差しかかったなら、『アーミーン』と言いなさい。そうすればアッラーはあなた方の祈りに応えるでしょう。また、彼がタクビールし、ルクーゥしたら、タクビールし、ルクーゥしなさい。イマームがあなた方より先にルクーゥし、あなた方より先にそこから戻るのであり、彼に先駆けてはなりません。イマームがルクーゥする時にあなた方に先駆けるその時間は、ルクーゥから戻る時にあなた方が彼に遅れるその時間によって、償われます。その時の時間が、その時のための時間となり、あなた方のルクーゥの長さは、彼のルクーゥの長さと同様となるのです。そしてイマームが『アッラーは、かれを讃える者を聞き給う』と言ったら、あなた方は『アッラーよ、我らの主よ、あなたにこそ賛美はあります』と言いなさい。礼拝者がそう言えばアッラーは、彼らの言葉と祈りをお聞きになるでしょう。というのも至高なるアッラーは、その預言者（アッラーからの祝福と平安あれ）の言葉によって、『アッラーは、かれを讃える者を聞き給う』と仰ったからなのです。また、イマームがタクビールし、サジダしたら、礼拝者たちもタクビールし、サジダしなさい。イマームがあなた方より先にサジダし、あなた方より先にそこから戻るのです。その時の時間が、その時のための時間となり、あなた方のサジダの長さは、彼のサジダの長さと同様となります。そしてタシャッフドの段になったら、礼拝者たちの最初の言葉をこれにしなさい：『挨拶とよきものと礼拝は、アッラーに。』つまり、王権、永遠、偉大さといったものは、アッラーにこそ相応しい。『預言者よ、

あなたに平安とアッラーのご慈悲と祝福あれ。私たちと、アッラーの正しい僕たちに平安あれ。』つまり、あらゆる欠陥、害悪、不足といったことからの無事を、アッラーに祈りなさい。そしてまず預言者（アッラーからの祝福と平安あれ）に対する特別な平安を祈り、次いで自分たちへの平安を祈り、次いでアッラーに対する義務と人々に対する義務を遵守する、アッラーの正しい僕たちへの平安を祈ります。それから、アッラー以外に崇拝すべきいかなるものもなく、ムハンマドがかれの僕であり使徒であることを証言するのです。」

http://www.sunnah.global/hadeeth/ja/show/65097